

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

# 2022年度（2023年3月期） 第2四半期決算説明会

2022年10月27日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

## 本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
mirror_mod.use_x = True
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = True
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
obj.select= 1
context.scene.objects.active
("Selected" + str(modifier))
mirror_ob.select = 0
```

## 2022年度第2四半期決算報告

取締役 兼 経営執行役員  
CFO & CCO (Chief Financial Officer & Chief Compliance Officer)  
管理本部長 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 四半期業績推移

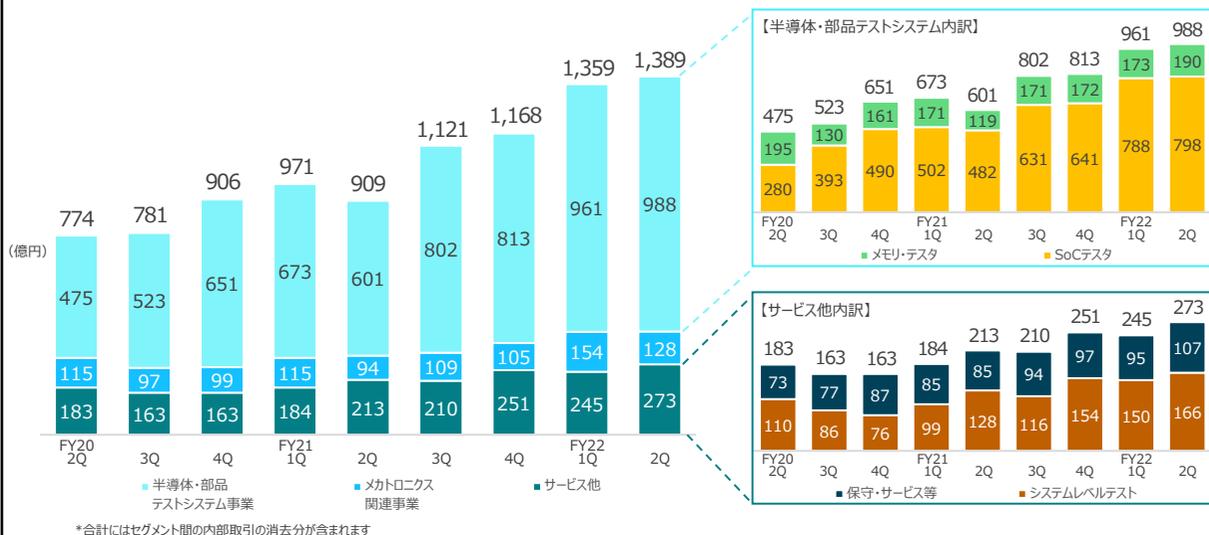
(億円)

	FY21				FY22						
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		前期比		前年同期比	
						予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	971	909	1,121	1,168	1,359	1,341	1,389	+29	+2.1%	+480	+52.8%
売上総利益	547	501	648	663	789	-	799	+9	+1.2%	+298	+59.7%
売上総利益率	56.4%	55.0%	57.9%	56.7%	58.1%	-	57.5%	-0.6pts		+2.5pts	
営業利益	261	214	335	337	448	405	431	-17	-3.7%	+218	+2.0倍
営業利益率	26.9%	23.5%	29.9%	28.8%	32.9%	30.2%	31.1%	-1.8pts		+7.6pts	
税引前四半期利益	257	216	340	350	484	409	468	-16	-3.3%	+253	+2.2倍
四半期利益	193	159	257	264	365	305	347	-18	-5.0%	+188	+2.2倍
四半期利益率	19.9%	17.5%	22.9%	22.6%	26.8%	22.7%	25.0%	-1.8pts		+7.5pts	
為替レート	1米ドル	109円	110円	112円	115円	124円	130円	135円	11円 円安		25円 円安
	1ユーロ	131円	131円	130円	130円	134円	140円	139円	5円 円安		8円 円安

### ○ 2022年度第2四半期の業績概要

- 当第2四半期の売上高は、前四半期に続き、四半期としては最高実績を更新しました。
- 営業利益、税引前四半期利益、四半期利益については、対前年比では大きく伸長しましたが、販売費および一般管理費の上昇などにより、前期比では減少となりました。
- 世界経済の景気後退懸念、半導体市場の減速感など当社を取り巻く事業環境は不透明感が高まりましたが、当第2四半期の売上高においては、高性能半導体向けのテスト売上が堅調で、計画にそった進捗となりました。
- 実績詳細は以降のスライドで順次ご説明いたします。

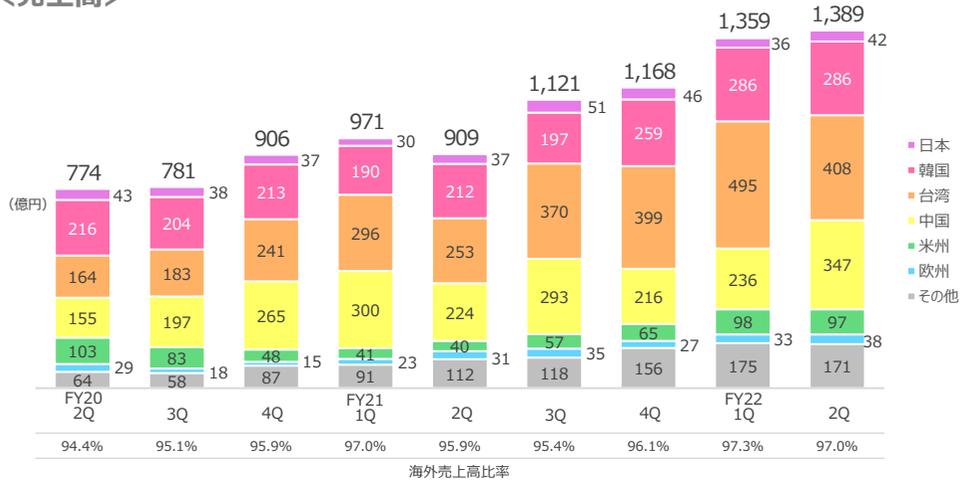
## 四半期売上高 事業セグメント別



- 2022年度第2四半期の売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
  - ・ 前期（2022年度第1四半期）比微増 988億円
  - ・ SoCテストは、798億円でした。スマートフォンをはじめとした民生品向けテスト需要は減少する一方で、ハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）やAI関連の半導体の開発と量産向けのテスト需要が継続しました。
  - ・ メモリ・テストは190億円と、顧客の長期にわたる戦略的な設備投資計画をベースに前期に引き続き高水準な需要が継続しました。
- メカトロニクス関連事業
  - ・ 前期比17.5%減 128億円
  - ・ ナノテクノロジー製品で、前期比売上が減少しました。
- サービス他
  - ・ 前期比11.8%増 273億円
  - ・ 高水準な半導体テスト需要に支えられ、保守、システムレベルテスト（SLT）の売上はともに安定的に推移しました。

## 四半期売上高 地域(出荷先)別

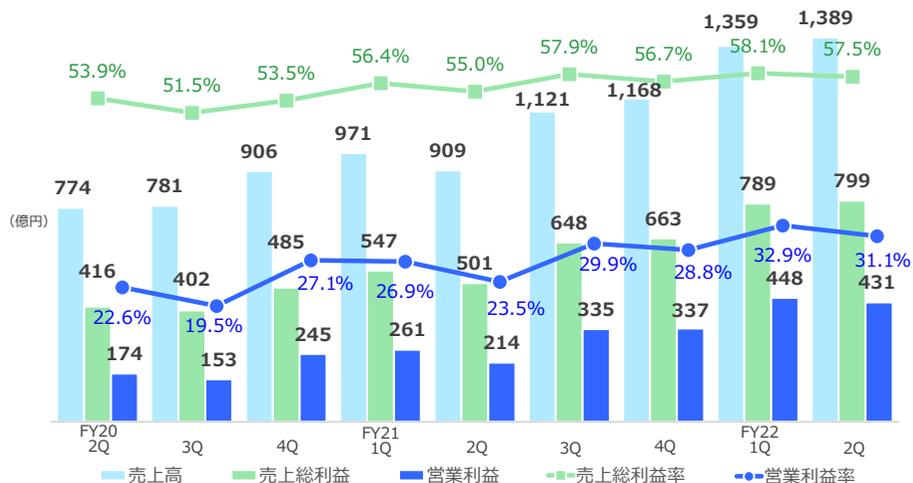
<売上高>



### ○ 2022年度第2四半期の地域別売上高

- 中国  
SoCテスト中心に売上が伸長しました。
- 台湾  
スマートフォン関連でのテスト販売が減少しました。
- 前期に引き続き、海外売上高比率は97.0%と高い比率となりました。

## 売上高/売上総利益/営業利益



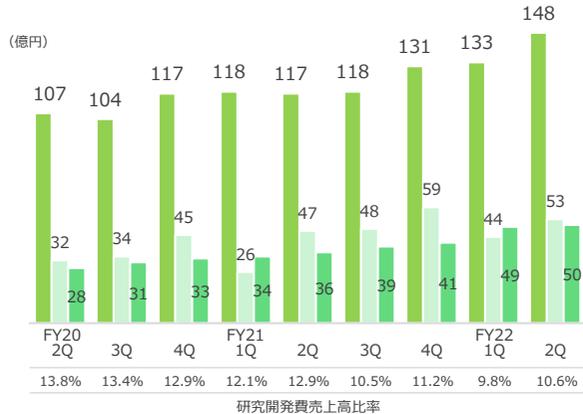
### ○ 2022年度第2四半期の売上高/売上総利益/営業利益

- 売上総利益率 57.5%  
部材調達コスト上昇の影響があったものの、良好な売上ミックスが継続し、高水準な売上総利益率が続きました。
- 販売費および一般管理費等（その他収益・費用を合算） 368億円  
人員増強や開発関連の経費増から、前期比で販管費等が増加しました。
- 営業利益 431億円
- 営業利益率 31.1%
- 前期に引き続き営業利益率は30%を超えるレベルを維持しました。

## 投資等/キャッシュ・フロー

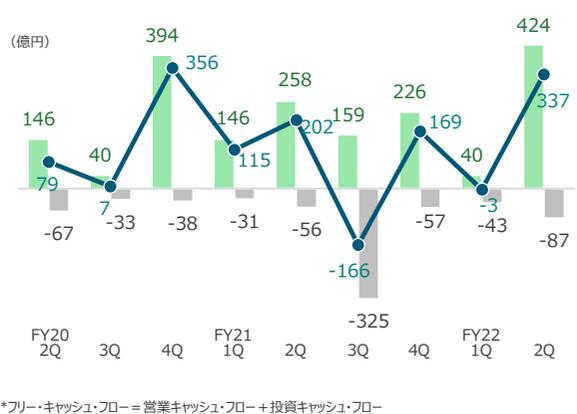
### <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



### <キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



### ○ 2022年度第2四半期の研究開発費等

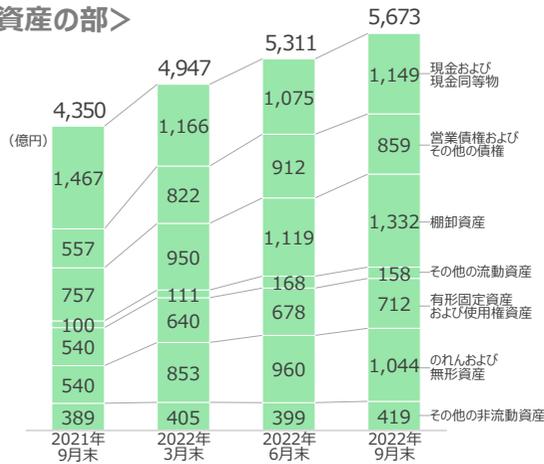
- 研究開発費 148億円
- 設備投資 53億円
- 減価償却費 50億円

### ○ 2022年度第2四半期のキャッシュ・フローの状況

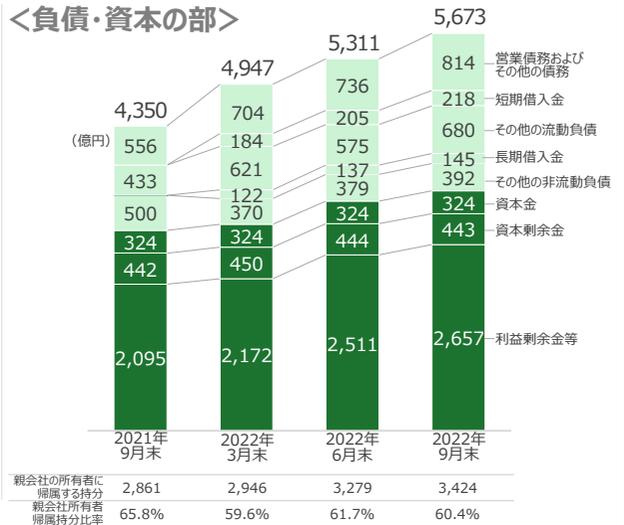
- フリー・キャッシュ・フロー 337億円  
営業キャッシュフローは424億円と高い水準となりました。一方、投資キャッシュフローは、8月にCREA社を買収したことなどから87億円の支出となり、フリー・キャッシュ・フローは337億円となりました。

# 連結財政状態

## <資産の部>



## <負債・資本の部>



### ○ 2022年9月末時点のバランス・シート

- 総資産 5,673億円
- 現金および現金同等物 1,149億円
- 棚卸資産 1,332億円  
部材調達難が継続している中、顧客の堅調な需要に対応するため棚卸資産が増加しています。
- のれんおよび無形資産 1,044億円  
為替影響とCREA社買収により、のれんおよび無形資産が増加しています。
- 親会社の所有者に帰属する持分 3,424億円
- 親会社所有者帰属持分比率 60.4%
- 7月に発表した自社株買いの進捗について、9月末までに取得した自己株式は345万株、273億円です。上限1,000万株に対しての進捗は34%、上限500億円に対しての進捗は55%です。
- また9月9日に800万株の自己株式を消却しております。



# 2022年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 事業環境と半導体テスト市場の動向 <22年10月時点の見方>

### <事業環境：景気後退懸念がさらに深まる>

-地政学的リスクの高まり、インフレ進行や金利上昇などの世界経済の先行きに対する不透明感はさらに増大。加えて、米国による中国向け輸出規制の強化など、半導体市場における不確実性も高まる

### <半導体市場：顧客やアプリケーションごとで半導体需要はまだら模様を呈する>

-スマートフォンやパソコン、テレビなど主要民生機器向け半導体の需要は減少し、関連する半導体メーカーでの在庫調整や製造装置の投資計画を見直す動きも強まる  
-社会のデジタル化の進展を支えるデータセンターやAI関連の需要は底堅さを持続しており、中長期的には自動車や産業機器向けなどを含め需要増を期待

### <半導体テスト市場：CY22はCY21と同水準を見込む>

-データセンター向けハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）やAI関連、ハイエンド・メモリなど、高性能半導体の技術進展や品質保証強化に伴うテスト需要が、民生品向けのテスト稼働調整、投資計画の見直しの動きを補う

	CY21実績	CY22推定
SoCテスト市場	約\$4.3B	約\$4.1-4.4B (7月時点推定: 約\$4.4B - 4.8B)
メモリ・テスト市場	約\$1.3B	約\$1.2-1.3B (7月時点推定: 約\$1.2B - 1.3B)

Source: Advantest

## ○ 事業環境と半導体テスト市場の見方

- 世界経済の先行きに対する不透明感がさらに増した事業環境になったとみています。地政学的リスクの高まり、インフレの進行や金利上昇など、景気後退への懸念がさらに深まりました。加えて、米国による中国向け輸出規制の強化など、半導体市場に対する不確実性も高まりました。
- この不透明な世界情勢のもと、半導体市場においても、スマートフォンやパソコン、テレビなど主要民生品の最終需要はいつそう弱含む動きも観測され、半導体の在庫調整や、製造装置の投資計画を見直す動きも顕在化しています。
- その一方で、社会のデジタル化の進展を支えるデータセンターやAI関連の半導体の需要は底堅さを持続しています。また、電動化の進む自動車向けや、産業機器向けなどでは、依然として不足感が強い状況が続いており、半導体需要はアプリケーションごとはまだら模様を呈しています。
- テスト市場でも、民生品向けでは、需要減速によるテスト稼働率の調整や投資計画の見直しといった動きがあります。しかし、データセンター向けHPCやハイエンド・メモリなど、高性能半導体の技術進展や、品質保証強化に伴うテスト需要が落ち込みを補うとみています。
- SoCテスト市場では、最新の市場全体見通しを踏まえ、3か月前の推定と比較し、市場規模を引き下げました。一方、当社売上高は計画通りの進捗を想定しており、マーケットシェアは上昇すると見込んでいます。
- メモリ・テスト市場では、メモリ半導体の市況悪化を背景に、設備導入計画の抑制を検討する動きが見られる一方、長期的な半導体需要拡大をにらんで戦略的な設備投資計画を推進する顧客も存在し、投資姿勢に濃淡が見られます。需要は底堅く推移すると見込み、市場規模は3か月前の想定を据え置きます。

## FY22業績予想

(億円)

	FY21	FY22					前年度比	
	実績	FY22		上期実績	下期予想	通期予想	増減額	増減率
		1Q実績	2Q実績					
売上高*1	4,169	1,359	1,389	2,748	2,752	5,500	+1,331	+31.9%
営業利益	1,147	448	431	879	821	1,700	+553	+48.2%
営業利益率	27.5%	32.9%	31.1%	32.0%	29.8%	30.9%	+3.4pts	
税引前利益	1,163	484	468	952	788	1,740	+577	+49.6%
当期利益	873	365	347	712	588	1,300	+427	+48.9%
当期利益率	20.9%	26.8%	25.0%	25.9%	21.4%	23.6%	+2.7pts	
研究開発費	484	133	148	281	319	600	+116	+24.0%
設備投資	180	44	53	97	173	270	+90	+50.0%
減価償却費	150	49	50	99	111	210	+60	+40.0%
為替レート*2	1米ドル	112円	124円	135円	130円	130円	130円	18円 円安
	1ユーロ	130円	134円	139円	137円	140円	138円	8円 円安

\*1: 合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

\*2: 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+13億円です。対ユーロは-2億円です

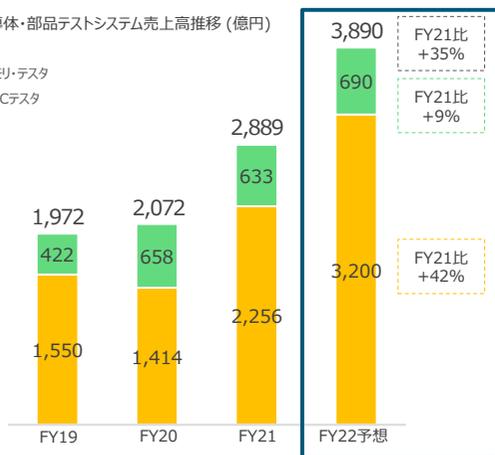
### ○ 2022年度の業績予想

- 先行き不透明感が高まっていることに鑑み、当連結会計年度の通期連結業績予想は、2022年7月に公表した予想を据え置きます。
- 売上高5,500億円、営業利益1,700億円、税引前利益1,740億円、当期利益1,300億円を見込みます。
- 下期業績予想の為替レート前提も、為替市況の予測が困難な状態であることから前回公表の米ドル130円、ユーロ140円に据え置きます。
- 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルで1円安時+13億円、対ユーロは-2億円です。
- 通期の売上総利益率は58%前後と、前回からの見方を変えていませんが、将来をにらんでの人員増強と開発強化を継続することから営業利益率は下期に低下を見込みます。
- 米国による中国向け輸出規制の強化やマクロ経済など外部環境の変化には注意が必要ですが、部材確保の強化も進め、売上、利益ともに3年連続の年度記録更新を見込みます。

## FY22見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）

■ メモリ・テスト  
■ SoCテスト



### 半導体・部品テストシステム事業

#### <SoCテスト>（7月予想比 +55億円）

—スマートフォンなど民生品向けテスト需要の減少を、データセンターやAI関連、自動車向けなどの底堅い需要で相殺

アプリケーション別内訳	FY19	FY20	FY21	FY22(予)
コンピューティング・通信	70%	55%	60%	70%
車載・産業機器・民生・DDIC*	30%	45%	40%	30%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

#### <メモリ・テスト>（7月予想比 -15億円）

—市況軟化を受け、テスト需要への影響は一定量見込むものの、ハイエンド・メモリ向けを中心に顧客の戦略的な投資姿勢も強固。底堅い需要推移を想定

アプリケーション別内訳	FY19	FY20	FY21	FY22(予)
DRAM	70%	60%	60%	65%
不揮発性メモリ	30%	40%	40%	35%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

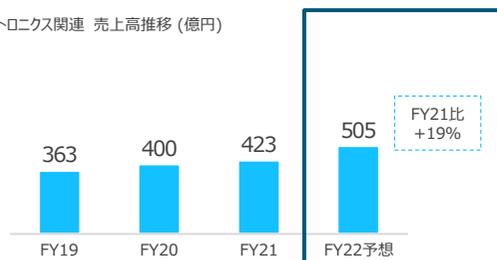
\* DDIC:ディスプレイドライバーIC

### ○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- SoCテストの2022年度通期売上予想を、7月の見通しから55億円引き上げ、3,200億円とします。
- スマートフォンやパソコンなどの主要民生品向けのテスト需要は、生産計画減少の影響を受け、アプリケーション・プロセッサ（APU）やディスプレイ・ドライバー・IC（DDIC）向けなどで減少しています。
- 一方、データセンター向けやAI関連では、半導体の高性能化を背景に、先端プロセスを採用することによるテスト需要の増加は堅調に推移しています。また、自動車の電動化加速に伴う半導体の生産量の増加もテスト需要を牽引する見通しです。
- メモリテストの2022年度通期売上予想は、7月の見通しから15億円引き下げ、690億円とします。
- メモリ半導体市場では、半導体メーカーにおける在庫調整や設備投資抑制の動きが広がっていることから、当社の顧客の一部では積極的な投資姿勢を修正する様子も見られます。
- しかしながら、ハイエンド・メモリの長期的な需要拡大に向けて、積極的な投資姿勢を継続する顧客のテスト需要は、足元の状況によらず、底堅く推移するものと見込んでいます。

## FY22見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）

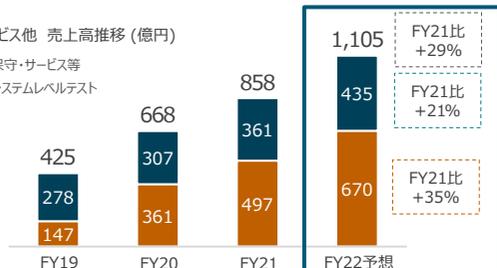


### メカトロニクス関連事業（7月予想比 -35億円）

- テスタ需要と連動し、高水準なデバイス・インタフェース製品の需要を見込む
- EUV露光の普及に加え、成熟プロセス向けマスク需要増がナノテクノロジー製品の需要を牽引

サービス他 売上高推移（億円）

- 保守・サービス等
- システムレベルテスト



### サービス他事業（7月予想比 -5億円）

- デバイスの信頼性要求の高まりが、システムレベルテストを採用する品種数の増加と高精度な消耗品需要の伸びを牽引
- 当社製品の設置台数の着実な伸びにより、保守サービスの需要が増加

## ○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- ・ メカトロニクス関連事業の2022年度通期売上予想は、505億円とします。
- ・ 7月の見通しからやや引き下げましたが、全体としては、高水準なデバイス・インタフェース製品の需要継続と、EUV露光の普及に加え、成熟プロセス向けマスク需要増が、ナノテクノロジー製品の需要を牽引すると見込んでます。
- ・ サービス他事業についても、売上予想を7月の見通しから若干引き下げ、1,105億円とします。
- ・ デバイスの信頼性要求の高まりが、システムレベルテストを採用する品種数の増加と、高精度な消耗品需要の伸びを牽引する見通しです。加えて、当社製品の設置台数の着実な伸びにより、サービス保守事業の底堅い需要増を見込んでいます。

## サマリー

- 地政学的リスクの高まり、インフレ進行や金利上昇など世界経済景気後退懸念が増大
- 米国による中国向け輸出規制の強化など、半導体市場における不確実性も高まる
- 主要民生機器向けの半導体の在庫調整や、投資計画の見直しの動きがテスト需要にも一定の影響
- 半導体の技術進化がもたらすテスト量の増加、自動車や産業機器向けなどでの底堅い需要は継続
- 2022年度の通期見通しを据え置き

### ○ サマリー

- 期初に比べ、半導体市場の潮目は急速に変化しています。世界経済の先行きに対する不透明感はさらに増大、今月に入って米国による中国向け輸出規制の強化など、半導体市場における不確実性もいっそう高まっています。
- 主要民生機器向けでは、半導体の在庫調整を背景とした生産計画の見直しから、今後のテスト稼働率が下がり、設備投資計画の見直しが行われるなど、テスト需要にも一定の影響があると見込んでます。
- 先行きの不透明感が高まっていることに鑑み、今年度の通期業績見通しは前回公表値を据え置きます。
- 半導体の高性能化を背景にしたテスト強化に向けた需要や、長期的な半導体需要の拡大に向けて戦略的な設備投資計画を推進する顧客の需要が、一部アプリケーションで落ち込む需要を補うと見込みます。
- 部材調達難により顧客の需要すべてに製品供給が追いついていない状況がまだ継続しており、一部顧客の需要低下を他顧客の需要に引き当てるなどの努力によって年度計画の達成を見込みます。
- 第2四半期の決算報告、および2022年の事業見通しとしての説明は、ここまですなります。非常に見通しづらい事業環境ではありますが、最後に、当社が今、テスト需要をどう捉え、どのように市場での競争優位性を保ち、顧客に価値を提供しているのかについて、次のスライドで少し説明させていただきたいと思えます。

## 半導体、半導体テスト市場の構造的な変化と当社の貢献

### 半導体市場と顧客の変化

- ✓ 半導体の社会インフラ化
- ✓ 新たなアプリケーションの登場
- ✓ 半導体市場への新規参入者の増加
- ✓ エネルギー効率向上、高性能化を求める半導体イノベーション
- ✓ 顧客の長期にわたる戦略的な開発・設備投資

### 当社が蓄積する強み、資産

- ✓ 研究開発への積極的かつ持続的投資
- ✓ 広範なアプリケーションをカバーする製品ポートフォリオとプラットフォーム戦略
- ✓ 強固な顧客基盤
- ✓ グローバルに展開する顧客サポート
- ✓ 健全な財務体質
- ✓ 魅力ある企業文化醸成

### 顧客の課題解決

- ✓ 総合的なテストソリューションを提供し、顧客のイノベーションを加速
- ↓
- ✓ よりよい半導体の開発・提供に向けた Time to Market, Time to Quality, Time to Volume の実現
- ↓
- ✓ テストは「製造コストの一部」からテストを通じ「半導体の性能・品質へ価値」を与える役割へ

テスト需要の変動幅は縮小

持続的な競争優位性の確立

顧客の利益を拡大、テストはコストからバリュークリエーターへ

顧客との商談はすでに2024年以降へシフト  
長期的な半導体市場の拡大へ向け、持続的な成長への投資を推進

### ○ 半導体、半導体テスト市場の構造的な変化と当社の貢献

- 半導体は社会インフラ化が進んでいます。メタバースのような新たなアプリケーションの登場も見込まれます。前工程装置の市場環境と異なり、半導体テスト市場では、ファブレス、OSATなど多様な顧客を抱えています。例えば、米国ハイパスケーラーのような、新たな新規参入者も増加していますが、これらの会社も我々の新たな顧客になると思っています。
- 流通するデータ量の飛躍的な増加に対し、半導体は、微細化や先端パッケージの採用など、回路集積度向上を通じた高機能化への取り組みと、環境負荷を抑制するための低消費電力化といった、エネルギー効率改善が同時に求められています。
- 半導体市場でのイノベーションの追求は、半導体の生産数の増加、技術進化によるテスト量の増加、そして長期的な視座をもって投資を実行する顧客の姿勢により、テスト需要の変動幅は過去と比べて縮小していると当社は感じています。
- 構造変化する半導体および半導体テスト市場に向けて、当社は蓄積する強みや資産を活かして顧客にハード・ソフト両面から価値を提供することで、顧客の利益拡大へ貢献しています。多様なアプリケーションに対応する製品ポートフォリオが競争優位性を持続する源泉となっていると考えています。
- かつては製造コストと位置づけられたテストですが、半導体の性能・品質の確認にとどまらず、Time to Market, Time to Quality, Time to Volumeを通じ競争力を高めるプロセスであると、顧客の意識が変化してきていると認識しています。
- 当社の過去1年半にわたる受注の多さから、リードタイムが延びていることもあり、顧客との商談はすでに2024年以降にシフトしています。パワー半導体向けテストソリューション拡充として8月に買収を完了したCREA社製品についても、当社主要顧客への提案を始めました。進化する半導体バリューチェーンにおいて、半導体の開発から製造工程の要所で、テストを通じて顧客価値を追求していきます。

## 統合報告書2022を発行

### <2022年度版の主なハイライト>

過年度版にお寄せいただきました、ステークホルダーの皆様からの主要なフィードバックを踏まえ、財務上の実績に加えて当社の価値創造に関する取り組みや、社外取締役が語る当社のコーポレートガバナンスなどの記述を充実

- 第2期中期経営計画（MTP2）の進捗
  - CEOメッセージ（P.5-9）
  - 第2期中期経営計画（MTP2）（P.14-16）
- 非財務資本の価値創造につながる強みについて詳述（P.22-37）
- 社外取締役対談（P.65-68）



統合報告書2022 [\(リンク\)](#)  
サステナビリティ・データブック2022 [\(リンク\)](#)

### ○ 統合報告書2022を発行

- 最後に、先週末に発行いたしました、今年度の統合報告書の主なハイライトをご紹介します。
- 今回の2022年度版では、第2期中期経営計画の進捗、非財務資本の価値創造につながる強み、社外取締役対談を通じた当社のコーポレートガバナンスなど、記述を充実いたしました。
- 私からの説明は以上となります。

**ADVANTEST®**

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION